



星美学園
小学校
第518号

ロザリオの月

聖書

羊は私の声を聞き分け
羊は私に従う

私もその羊を知り

アレルヤ唱 ヨハネ一〇・二十七

どうして勉強するの？

図画工作科 齋 彩子

「どうしてこれを勉強するのだろうか？」この学習は今後役に立つのだろうか？」

今までに何度この質問を受けたことでしょうか。

簡単に「教養のため」や「次世代に人類の発見や発明等の文化を伝えるため」「より先の未来をつくるため」とか、「生きる力をつけるため」などと答えられるものではありません。

確かに、一般的な普通の生活をおくるのに、オリンピック体操選手のジャンプから着地までの一連の動きが美しい放物線の軌跡を描いているということについて思いをはせることはありません。建設予定のマンションの日影予想図が美しい双曲線を描いていることよりも、自分の家が影に入るのか入らないのかどうかという方が気になります。テレビゲームでもオーバーラップして画面の切り替えがなされている最中に次のプログラムが読み込まれているのだから、特に遊んでいる最中は考えません。実生活から遠い内容ほど、普段は使われない知識となります。

ところが不意に、「しまった！あのとときすっかり学んでおけば……！」という場面がやってきます。場合によっては「すっかり学んでおいてよかった。」と胸をなでおろすこともあります。何の知識や技能が必要になるのか、そのシチュエーションは人によって様々です。例えば私の場合ですと、災害に遭った時にご飯をガスコンロで上手に炊く方法をすっかり家庭科で学んでおけばよかったとか、林間学校で即興でキーボードを弾かなくてはならない状況になりこっそり誰にも見られないところで秘密に練習したとか。学生時代にノートのすみっこにお気楽にパラパラ漫画を描いていた時は、将来子ども達の図画工作の担当になるということは想定外でした。そして現在、パソコンにデータを入力す

るのに小学校で学習したはずのローマ字でこんなに悩まされるとは！

今までに得た知識や技能を今すぐに活かす場がなくても、ある日突然に必要なになるということは頭でわかっているても真剣に取り組むことは難しいものです。むしろ自分にとって必要のないものに思えてきます。けれども、好き嫌いや得手不得手に関係なく、必ずその知識や技能が今後必要とされる場面が出てくるのです。しかも、大抵の場合は知識や技能、体験を複合的に融合させたものが要求されます。然し、今までの体験で身に付けた知識や技能は無駄になることは全くありません。そして知識や技能は「学んでいてよかった」「うまくいってよかった」という達成感・充実感だけではなく、自信を持ち、更に自分の出来ること・可能性の扉を開くことができます。次へのステップとなり心と体を進めていくものなのです。時には今までの生活と異なる文化・価値観に触れることもあるでしょう。そこで新しい考え方を学び、自分の考えを高め、善いことを選び取って一歩先に進む。子ども達の、人間の成長の醍醐味はここにあります。

ドン・ボスコは十一歳の時に、カロッソ神父に「勉強がしたくてたまりません」と打ち明けています。後に唱えた「予防教育」では、人間の内面を育てることを重視し、子ども達の心の中につかりした考え方、信念、世界観を作ることの大切さについて語られています。また、「教育の一番大切な、一番難しいところは、信念を育てること、生きる意味を悟らせることである。」とされています。

教科書に載っている学習内容は、子ども達の発達段階に合わせた選りすぐりの「知っておいてほしいこと」「身につけておいてほしいこと」です。特に小学校の場合は、総合的な学習の時間や委員会・クラブ活動などの活動や、学校生活全体を通して学ぶ「教科書に載っていないこと」も、見聞を広め、経験を積み、心を育てる大事な成長の場であることを理解し、日々学んでほしいと思います。

「チマツチ神父の生涯」
〜日本の地で聖ドン・ボスコの心を生きた人〜



チマツチ神父と宣教師達は、一年間の日本語研修を経て、念願の宣教活動を開始した。彼らに任せられた地域は、九州の大分と宮崎の両県であった。

それまでこの県は、パリ外国宣教会宣教師が宣教に当たっていたが、三つの教会を譲り受け、信者数三〇〇人の司牧を始めた。チマツチ神父の合言葉は常に、「ドン・ボスコのよう」であった。ドン・ボスコが行っていたオラトリオ(祈りの家)を開始し、子どもを集め、遊ばせたり、歌を教えたりしながら、教育と宣教活動を行った。大人からも大きな興味と関心を受けた。根気、犠牲を要する活動であったが、多くの実りを生んでいった。また、親切と心のこもった言葉をかけながら、貧しい人、病人、高齢者に接していた。こうして、ドン・ボスコの精神と活動が日本に少しずつ広まっていった。

宣教活動の傍ら、出版物にも力を注ぎ、パンフレット、月刊誌、特にドン・ボスコやドメニコ・サビオなど聖人の伝記を発行し、ついに、大分出版社を設置するまでになった。これがドン・ボスコ社の始まりとなったのである。

三年生 林間学校

ドキドキの探検

三年

「ブオオーン。」
バスのエンジンが鳴りました。富士林間学校が始まりました。私はもう今日会えないお母さんに手をいっぱい振りました。

私がこの富士林間学校で一番楽しかったのは溶岩樹形の中に入ったことです。溶岩樹形とは溶岩にのみこまれた大木によってできたどうくつです。森に入った時にまず溶岩樹形とはどういうものなのかを見ました。落とし穴みたいでこわかったです。はしごを二メートルくらいおりました。底に着いて、溶岩樹形の中を探検しました。暗いので、かい中電灯をつけました。どうくつの中はせまくて、直ぐに六十センチくらいでした。空気がひんやりしていました。手をつけてしやがんで進みました。軍手がどろだらけになって、気持ちが悪かったです。でもどうくつの探検はハラハラドキドキして、面白かったです。

富士林間学校

三年

一日目で一番心に残ったことは、富士山で登山したことでした。初めてだったので、すごかったです。実さいに登って見たら、地面は赤と黒のごつごつしたよう岩でした。登る前は、道ばたにもゴミが落ちていっていると思っていました。しかし、行ってみるときれいでした。森林も思っていたより多かったです。

二番目に心に残ったことは、富士山のちよう上を見ながら食べたお弁当です。その時見たちよう上には、赤いよう岩の所と黒いよう岩の所がありました。ちよう上の所の雲を見ると、雲がものすごいスピードで動いているのが分かりました。家などから見る雲はゆっくりに見えるけれども、本当はものすごいスピードなのだということが分かりました。ちよう上を見ながら食べたお弁当はとくべつにおいしかったです。

楽しかった林間学校

三年

一、二年生では先生といっしょのお部屋でねていたのに、今年は、お部屋でいっしょにとまる先生がいなかったのでもドキドキしました。

この二日間の中で一番楽しかったことは、キャンプファイヤーです。なかでもとくに楽しかったのはマイムマイムです。なぜなら、火のまわりで手をつなぎながらおどりをおどったのははじめてだったからです。

一日目のお昼には、富士山の五合目までお中道を歩きました。私は、今まで富士山は水色と白だと思っていました。でも本当は、よう岩がふきでたあとの赤い色でした。お弁当の時にはめったに見られないかさ雲も見られたので、とても楽しかったです。

10月行事予定

- 1日(土) 学習発表会
1日(土) ~ 11日(火)
平成29年度入学願書受付【郵送】
2日(日) ~ 10日(月) 冬服移行期間
3日(月) 都民の日振替休日
6日(木) 避難訓練
7日(金) 外部生入学面接開始
8日(土) 星美彩(ドン・ボスコ ファミリーデー)
10日(月) 体育の日
11日(火) 冬服衣替え
12日(水) 全校話し合い集会・地区ランチ
13日(木) 秋の遠足・社会科見学(4年生以外)
17日(月) 全校研修(4A以外 14:20下校)
18日(火) 星の会② 歩む会③
19日(水) 4年生社会科見学・おにぎり献金日
22日(土) 星美幼稚園生入学試験(児童は休み)
25日(火) モアレ検査(5年生) ホームスティ学習会②
27日(木) 縄跳び集会
29日(土) 第4土曜日振休
31日(月) 3校時授業

冬服への移行について

衣替えの時期が近づいて参りました。

学習発表会の翌日から移行期間がはじまり、10月11日(火)から完全に冬服となります。どうぞ、ご準備をお願い致します。

移行期間 10月 4日(火) ~ 10日(月)
冬服期間 10月11日(火) ~

星美彩(ドン・ボスコ ファミリーデー)

会場設営からバザー・ゲーム・飲食のイベント、最後の片付けまでをみんなで行い、ご家族で楽しく過ごしていただきたいと思ひます。ご参加ご協力の程、お願い申し上げます。

詳細は学級通信や学校・父母の会より配布された手紙などでご確認ください。



地区ランチ

今年度2回目の地区別班ごとの昼食です。

仲良く昼食を食べた後、班ごとに遊び親睦を深めます。この日は牛乳がありませんので、水筒持参でお願いします。

秋の遠足・社会科見学

学年別の遠足・社会科見学です。行き先は学年により異なりますので学級通信等でご確認ください。雨天時でも決行いたします。